

消費支出に関する一考察

八巻 夕子

1. はじめに

経済が発展し世の中の経済のしくみが複雑化してくるにつれて勤労者間に於ける所得格差が生じてきている。その中で多くの人々は平等とは言いがたい暮らしに疲弊してきている。将来に向けて何とも言えない不安が募る中で精神的な病にかかる人たちが増加している。今日の日本においては年間3万人の自殺者がおり高齢者の自殺も増加している。原因は病気等もあるが経済的困窮が要因となっているケースもある。経済が人の命に関わっているのである。

退職後の余生が長い今日どのように暮らしていったら良いか今から予測してそのための準備をしていきたいと思う。そこで今現在の我が家の消費支出を明らかにし全国に於ける平均的な消費生活を示しているであろう全国家計調査年報を参考にしながら今後の生活に生かしていきたいと思う。

そこでまず我が家の消費支出の中身についてデータの整っている平成19年より平成24年までの家計簿を基に分析をし我が家の消費支出の特徴を明らかにしていく。そして光熱費の変化を示した後各年ごとの家庭を取り巻く経済・社会状況の変化を示す。

次に全国家計調査年報で当該年度に於ける消費支出のデータ分析を行い我が家との違いについて考察していく。

最後に60歳からの生活費についてその実態を家計調査年報から分析し、我が家に於ける対応について検討をし、我が家の今後の生活に生かしていくための指針としたい。

2. 我が家の消費支出について

平成19年1月から平成24年12月までの6年間について分析していく。

我が家の家族構成等は以下のとおりである。

- ・ 50代夫 妻 息子 3人家族
- ・ 夫の職業 公務員 妻 専業主婦 息子 学生

我が家の消費支出の分類にあたり、「家計調査 収支項目分類の解説（平成12年1月改訂）」を参考にして、以下のように表にまとめた。

食料	穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物、油脂・調味料、菓子類、調理食品、飲料、酒類、外食
住居	家賃地代、設備修繕・維持
光熱・水道	電気代、ガス代、他の光熱、上下水道料
家具・家事用品	家庭用耐久財、室内装備・装飾品、寝具類、家事雑貨、家事用消耗品、家事サービス
被服・履物	和服、洋服、シャツ・セーター類、下着類、生地・糸類、他の被服、履物類、被服関連サービス
保健医療	医薬品、健康保持用摂取品、保健医療用品・器具、保健医療サービス
交通・通信	運賃、自動車等関係費、通信
教育	授業料、教科書、学習参考教材、補習教育
教養娯楽	教養娯楽用耐久財、教養娯楽用品、書籍・他の印刷物、教養娯楽サービス
その他の消費支出	諸雑費、こづかい（使途不明）、交際費、仕送り金

（注）家計調査 収支項目分類の解説（平成12年1月改訂）

編集 総務省 統計局 平成13年5月発行 P2～P8より表を作成

我が家の消費支出の月平均額（ ）内は各項目の支出に占める割合 単位：（円）

項目	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平均
食料	125,861 (22.31%)	113,273 (23.14%)	112,531 (19.91%)	106,408 (20.36%)	106,178 (18.16%)	113,815 (20.23%)	113,011 (20.62%)
住居	21,085 (3.74%)	4,296 (0.88%)	2,192 (0.39%)	750 (0.14%)	98,843 (16.90%)	2,705 (0.48%)	21,645 (3.95%)
光熱・水道	33,104 (5.87%)	30,511 (6.23%)	28,769 (5.09%)	31,348 (6.00%)	29,830 (5.10%)	34,958 (6.21%)	31,420 (5.73%)
家具・ 家事用品	26,588 (4.71%)	13,174 (2.69%)	7,409 (1.31%)	13,712 (2.62%)	20,635 (3.53%)	9,211 (1.64%)	15,122 (2.76%)
被服・履物	25,739 (4.56%)	29,950 (6.12%)	12,262 (2.17%)	37,712 (7.22%)	18,213 (3.11%)	36,647 (6.51%)	26,754 (4.88%)
保健医療	11,122 (1.97%)	8,636 (1.76%)	8,634 (1.53%)	6,467 (1.24%)	8,886 (1.52%)	13,699 (2.44%)	9,574 (1.75%)
交通・通信	70,330 (12.47%)	57,164 (11.68%)	87,954 (15.56%)	57,218 (10.95%)	51,355 (8.78%)	69,995 (12.44%)	65,669 (11.98%)
教育	121,449 (21.53%)	116,102 (23.71%)	145,227 (25.70%)	138,132 (26.43%)	130,117 (22.25%)	138,155 (24.56%)	131,530 (24.00%)
教養娯楽	56,993 (10.10%)	31,358 (6.40%)	56,755 (10.04%)	39,092 (7.48%)	46,800 (8.00%)	62,075 (11.03%)	48,846 (8.91%)
その他の 消費支出	71,808 (12.73%)	85,148 (17.39%)	103,400 (18.30%)	91,707 (17.55%)	73,970 (12.65%)	81,288 (14.45%)	84,554 (15.43%)
消費支出 合計	564,079	489,612	565,133	522,546	584,827	562,548	548,124

上記の表より次の事が言える。

(1) 我が家の消費支出の月平均額の特徴

①食費

食費はエンゲル係数が凡そ 20%前後に推移している。平成 19 年は 1 人当たり月 41,954 円、1 日当たり 1,398 円、1 食 466 円となっている。平成 23 年は 1 人当たり月 35,393 円、1 日当たり 1,180 円、1 食 393 円となっている。平成 19 年から平成 24 年までの 6 年間の平均だと 1 人当たり月 37,670 円、1 日当たり 1,256 円、1 食 419 円となっている。

今までは食料品を 1 度買いすぎ家族の人数分よりおかずやご飯の量が多すぎた。外食の回数も頻繁だった。特に 10 年前ぐらいから家族の体重が少しずつ増え続けてきていた。そのため平成 22 年 3 月から今日まで健康を考えて野菜の量を増やして、毎食欠かさず食べるようにしている。またカロリーを考え牛肉は止めて豚肉や鶏肉を好んで使うようになってきた。1 回の買い物の量も以前より減ってきた。今まで常備していたお菓子もこの頃はあまり買わなくなってきた。衝動買いをしないように気をつけるだけで食費の支出がかなり抑えられることがわかった。平成 23 年 3 月から、いざという時のためにペットボトルの水を常備するようになった。

②住居費

住居費は年によって大幅に支出が変動している。例えば平成 19 年にはトイレを新しくする。同じ年に火災報知機を各部屋に取り付けた。平成 20 年には分電板の交換、排水管の掃除を行った。平成 23 年には東日本大震災で屋根瓦が落ちたため屋根・雨樋・カーポートを修繕した。洗面台もひびが入り新しい物に取り替えた。風呂場のタイルも数枚はがれ落ち排水口も壊れたため修理した。今後も台風や地震などの自然災害等による修理のために貯蓄をしておかなければと思う。

③光熱・水道費

光熱・水道費は消費支出全体の 5%~6%を占めている。平成 24 年 9 月より東京電力電気料金の値上げがあった。光熱・水道費は、平成 23 年を除き、平成 21 年から増えてきている。今後は減らしていく方向で努力をしていきたい。そのため月別の変化を見て無駄がないかチェックをしていきたい。

④家具・家事用品費

家具・家事用品費はティッシュペーパー・トイレットペーパー、洗剤など家事用消耗品が多くを占めている。平成 19 年に冷蔵庫を購入し平成 23 年に洗濯機を購入しているのもその年の家具・家事用品の支出が例年に比べ高くなっている。

⑤被服・履物費

被服・履物費は夫と妻のスーツを新調した年は消費支出が特に増えている。結婚式に招かれ出席するなど、平成 20 年と平成 22 年、平成 24 年が例年に比べて増加している。

⑥保健医療費

保健医療費は特に平成 24 年は平成 23 年に比べて凡そ 1%増加している。夫婦とも毎年健康診断を受けている。夫は 40 代から妻は 50 代から定期的に医院に行き薬を服用するようになってきた。歯が弱くなり歯医者に行く機会も増えた。健康状態を維持していくことが今後の保健医療の支出を抑える上で重要になってくる。

⑦交通・通信費

交通・通信費は凡そ 9%～15%を占めている。子どもの手が離れ夫婦で旅行する機会が増えた。平成 19 年は銀婚式の記念に九州と北海道に出かけた。平成 21 年は 4 回、平成 24 年は 6 回の宿泊を兼ねた旅行をしている。その他に自動車を所持しているため、駐車場代、自動車整備代金、ガソリン代等がかかっている。通信もインターネットや携帯電話、自宅の電話など、ますます生活に欠かせなくなっている。交通・通信の消費支出は便利さと相まって今後ますます増えていくことが予想される。

⑧教育費

教育費は消費支出に占める割合が平均で凡そ 24%を占めている。平成 21 年は大学の入学金・その他を支払ったので他の年に比べて増加している。授業料の他、教科書や参考書や実験費、施設設備費用がかかるため、年によって支出に変動がある。貯金を切り崩しての生活が続いている。

⑨教養娯楽費

教養娯楽費は年によって変動の幅が大きい。旅行、コンサート等の回数によって変化がある。交通・通信費と連動して推移している。夫婦で旅行に出かけることが多いため、平成 19 年 21 年 23 年 24 年は旅館、ホテルなどの宿代の支出が増えている。この項目は生きる活力を与えてくれるので今後も回数を考慮しながら楽しんでいきたい。

⑩その他の消費支出

その他の消費支出は夫や息子の小遣いも含まれる。

平成 21 年と平成 22 年は家族で結婚式に出席したもので例年より高くなっている。おみやげなどを大目に買いすぎる癖があるので老後に備えて縮小していきたい。潤いのある暮らしをするためには、この項目をむやみに減らす事はできないが増やさない工夫をしていきたいと思う。

3. 我が家の電気・ガス・水道・灯油の使用料について

(1) 我が家の電気使用料

単位：(円)

月 年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	月平均
1月	22,316	25,278	32,250	25,557	28,060	32,077	27,530
2月	17,703	22,237	31,096	20,627	24,073	27,613	23,892
3月	18,035	18,281	23,540	18,456	21,657	25,798	20,961
4月	16,334	15,992	18,711	19,369	14,137	19,102	17,274
5月	15,140	16,052	13,287	13,527	13,208	16,332	14,591
6月	13,049	12,367	10,993	13,262	12,056	13,845	12,595
7月	14,025	17,159	14,472	22,103	15,772	15,545	16,513
8月	21,755	18,742	14,619	22,429	14,892	23,357	19,299
9月	15,765	15,005	12,829	23,792	16,995	19,965	17,392
10月	12,183	12,682	11,108	13,409	11,784	16,528	12,949
11月	17,124	16,609	15,269	19,840	17,397	22,742	18,164
12月	18,302	18,185	17,679	20,791	22,761	30,823	21,424
合計	201,731	208,589	215,853	233,162	212,792	263,727	
月平均	16,811	17,382	17,988	19,430	17,733	21,977	

上記の表より次のことが言える。

- ・ エアコンが5台あるため寒い時期の冬場に電気の使用量が増えている。特に12月と1月と2月が際立っている。
- ・ お風呂が電気温水器のため最低でも電気料が1万円を越えてしまう。
- ・ 平成23年を除き平成19年から平成24年にかけて毎年電気料金が増加している。

(2) 我が家のガス使用料

単位：(円)

月 年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	月平均
1月	2,662	2,696	2,745	2,623	2,344	3,627	2,783
2月	2,312	2,696	3,147	2,815	2,690	3,437	2,850
3月	2,662	2,339	3,147	2,311	2,156	3,056	2,612
4月	2,493	2,382	2,524	3,030	2,876	3,447	2,792
5月	2,493	2,748	2,922	2,510	1,994	2,281	2,491
6月	2,493	2,564	2,325	2,521	2,186	2,486	2,429
7月	2,309	2,235	1,973	1,992	1,650	2,499	2,110
8月	2,484	2,048	1,777	1,823	2,028	1,722	1,980
9月	1,959	2,048	2,266	1,461	2,043	2,315	2,015
10月	2,495	2,072	2,254	2,368	2,443	2,512	2,357
11月	2,847	2,837	2,594	2,358	2,848	3,098	2,764
12月	2,671	3,028	2,437	2,353	3,245	2,699	2,739
合計	29,880	29,693	30,111	28,165	28,503	33,179	
月平均	2,490	2,474	2,509	2,347	2,375	2,765	

上記の表より次のことが言える。

ガスの使用が、お湯を沸かしたり調理する時などに限られるので、電気や水道や灯油の料金と比べて変動幅が少なく、1 ヶ月の使用料金の凡その目安が把握しやすい。7 月と 8 月と 9 月はガスの使用が少なくなっている。平成 24 年は例年に比べて使用料が増加している。

(3) 我が家の水道使用料金

単位：(円)

月 年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	月平均
1月	12,347	9,155	7,364	6,703	7,374	6,738	8,280
2月	11,549	10,751	6,703	7,034	7,374	6,420	8,305
3月	10,751	9,155	6,042	5,711	7,374	5,784	7,470
4月	13,343	9,155	6,703	7,693	11,875	7,056	9,304
5月	9,554	8,358	6,372	6,738	6,101	7,056	7,363
6月	10,751	8,026	6,703	8,397	6,738	6,738	7,892
7月	11,549	6,703	6,703	7,056	6,738	7,056	7,634
8月	11,150	6,703	6,703	7,693	7,374	6,101	7,621
9月	10,352	6,372	7,695	5,784	6,101	8,397	7,450
10月	9,554	6,703	7,364	7,374	7,056	7,374	7,571
11月	8,756	8,756	8,026	8,011	6,420	8,784	8,126
12月	9,953	7,364	6,703	7,374	6,420	7,374	7,531
合計	129,309	97,201	83,081	85,568	86,945	84,878	
月平均	10,776	8,100	6,923	7,131	7,245	7,073	

上記の表より次のことが言える

平成19年は全体的に水道使用料金が例年より高くなっている。庭の水撒きをしたことが影響している。

平成20年の5月から平成24年の12月までを見ると1ヵ月の水道料金は凡そ6,000円～8,800円くらいの幅で推移していて、平成19年と平成20年を除くと、年間の使用水量は毎年ほぼ同量ということがいえる。

月による特徴はあまり見られない。平成23年4月は東日本大震災による原発事故のため親戚が9人我が家に避難してきたため、使用量が増えている。

(4) 我が家の灯油使用料

単位：(円)

月 年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	月平均
1月	8,330	14,030	4,650	6,195	7,995	9,100	8,383
2月	10,180	10,500	3,840	7,080	10,400	6,440	8,073
3月	2,430	0	0	5,180	5,720	8,900	3,705
4月	0	0	0	1,450	0	0	242
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0
11月	4,541	0	2,730	4,930	1,400	6,457	3,343
12月	10,550	6,120	4,968	4,440	4,200	6,790	6,178
合計	36,031	30,650	16,188	29,275	29,715	37,687	
月平均	3,003	2,554	1,349	2,440	2,476	3,141	

上記の表より次のことが言える

灯油代の6年間の合計は、179,546円となり、1年間で凡そ29,924円で1カ月当たり2,494円となる。平成19年と平成24年の灯油の使用料が特に高くなっている。

因みに平成19年の灯油18ℓの値段は1月は1,260円、12月は1,800円、平成20年の1月は1,750円、12月は1,440円、平成21年の1月は1,280円、12月は1,380円、平成22年の1月は1,380円、12月は1,480円、平成23年の1月は1,580円、12月は1,680円、平成24年の1月は1,680円、12月は1,780円となっている。

(5) 我が家の電気・ガス・水道・灯油の合計使用料

単位：(円)

月 年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	月平均
1月	45,655	51,159	47,009	41,078	45,773	51,542	47,036
2月	41,744	46,184	44,786	37,556	44,537	43,910	43,120
3月	33,878	29,775	32,729	31,658	36,907	43,538	34,748
4月	32,170	27,529	27,938	31,542	28,888	29,605	29,612
5月	27,187	27,158	22,581	22,775	21,303	25,669	24,446
6月	26,293	22,957	20,021	24,180	20,980	23,069	22,917
7月	27,883	26,097	23,148	31,151	24,160	25,100	26,257
8月	35,389	27,493	23,099	31,945	24,294	31,180	28,900
9月	28,076	23,425	22,790	31,037	25,139	30,677	26,857
10月	24,232	21,457	20,726	23,151	21,283	26,414	22,877
11月	33,268	28,202	28,619	35,139	28,065	41,111	32,401
12月	41,476	34,697	31,787	34,958	36,626	47,686	37,872
合計	397,251	366,133	345,233	376,170	357,955	419,501	
月平均	33,104	30,511	28,769	31,348	29,830	34,958	

上記の表より次のことが言える。

1月と2月と3月と11月と12月の5ヵ月間は使用料が他の月と比べると特に多くなっている。

便利なエアコンをなるべく使用しないようにすれば電気料は、減らしていけると思う。

平成23年に比べて平成24年は月平均5,000円増えている。

4. 各年の家庭を取り巻く経済社会状況の主な特色

(1) 平成 19 年

- 原油価格の高騰により、ガソリン及び灯油の価格が大幅に上昇した。そのほか、原材料費の高騰もあり、様々な商品やサービスの価格の値上げが発表され、それらの一部が実施された
- 3月に能登半島地震、7月に新潟中越地震が発生し、柏崎刈羽原子力発電所が停止したため東京電力は関東地方の消費者や企業等に節電を呼びかけた。
- 全国的に酷暑となり、残暑も厳しかったので、アイスクリーム、シャーベット、飲料、ビール、エアコン等の支出が増加した。その他に、郵政事業の民営化が実施され、10月に日本郵政グループが誕生した。

(2) 平成 20 年

- 前年に引き続き、原油価格が高騰し、その影響で穀物価格が高騰して、パン・即席めんなどの食料品の価格が上昇した。
- 6月に岩手・宮城内陸沖地震が発生した。8月に北京オリンピックが開催され、9月には世界的な金融危機が発生し株価が暴落した。
- 7月は東日本・西日本を中心に猛暑で晴天だったことと8月に局地的な大雨があったことが影響してエアコン、電気洗濯機等の支出が増加した。

(3) 平成 21 年

- 月例経済報告によると「物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。」と述べられている。
- 5月に新型インフルエンザ（A/H1N1型）の国内感染があったことが発表される。
- 7月に中国・九州北部豪雨、8月に駿河湾を震源とする地震が発生した。その他に格安ジーンズやプライベートブランド商品等の低価格商品が増加した。

(4) 平成 22 年

- 春以降、円高・株安傾向が深刻化してきている。日本銀行が包括緩和を実施し、10月には事実上のゼロ金利政策を復活させている。
- 5月から7月にかけて、宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」の発生による非常事態宣言が発動される。
- 2月にバンクーバー冬季オリンピックが開催され、6月から7月にかけてサッカーワールドカップ南アフリカ大会が開催された。

- 記録的な猛暑の影響でアイスクリーム、シャーベット、飲料、エアコン等の支出が増加した。

- 3D対応テレビやタブレット型の新型多機能情報端末が発売された。

(5) 平成 23 年

- 3月の東日本大震災の影響で東北電力と東京電力管内で電力使用制限令が7月から9月にかけて発動された。

- 消費支出全体で見ると、例年に比べて1カ月あたり凡そ5,000円減少している。

- 3月に九州新幹線が全線開通した。

- 7月に東北3県を除いて地上デジタル放送に完全移行した。

- 同じ7月にFIFA女子ワールドカップドイツ大会で日本代表チームが初優勝した。

(6) 平成 24 年

- 2月に復興庁が発足し5月にスカイツリーが開業した。

- 7月に九州北部豪雨が発生した。

- 7月から8月にかけてロンドンオリンピックが開催された。

- 7月から9月にかけて関西電力、九州電力管内で12月からは北海道電力管内で数値目標を設定した節電要請があった。

- 9月に東京電力電気料金の値上げがあり、10月に地球温暖化対策のための環境税が施行された。

5. 全国家計調査年報の6年間の1カ月当たりの平均消費支出と我が家の6年間の1カ月当たりの平均消費支出との比較について（平成19年から平成24年までの6年間）

項目	平成19年から平成24年までの我が家の平均	2人以上の世帯の場合	世帯主の年齢階級別家計支出(2人以上の世帯)50歳～59歳	世帯人員別家計支出総世帯3人の場合	世帯主の年齢階級別家計支出(2人以上の世帯)60歳～69歳
食料	113,011 (20.62%)	67,934 (23.35%)	74,386 (21.76%)	67,820 (23.01%)	69,192 (24.44%)
住居	21,645 (3.95%)	17,857 (6.14%)	15,753 (4.61%)	20,255 (6.87%)	15,944 (5.63%)
光熱・水道	31,420 (5.73%)	22,156 (7.60%)	24,448 (7.15%)	22,415 (7.60%)	22,419 (7.92%)
家具・家事用品	15,122 (2.76%)	10,021 (3.44%)	11,080 (3.24%)	10,332 (3.50%)	10,706 (3.78%)
被服・履物	26,754 (4.88%)	11,964 (4.11%)	14,543 (4.25%)	12,102 (4.11%)	10,506 (3.71%)
保健医療	9,574 (1.75%)	12,793 (4.40%)	11,924 (3.49%)	12,781 (4.34%)	14,898 (5.26%)
交通・通信	65,669 (11.98%)	38,476 (13.22%)	48,773 (14.27%)	40,143 (13.62%)	34,213 (12.09%)
教育	131,530 (24.00%)	12,226 (4.20%)	19,672 (5.75%)	8,416 (2.85%)	1,656 (0.59%)
教養娯楽	48,846 (8.91%)	30,508 (10.48%)	31,136 (9.11%)	29,117 (9.88%)	30,827 (10.89%)
その他の消費支出	84,554 (15.43%)	67,040 (23.04%)	90,150 (26.37%)	71,416 (24.23%)	72,700 (25.68%)
消費支出合計	548,124	290,975	341,868	294,794	283,061

(出所) 総務省統計局「家計調査年報《家計収支編》」平成19年から平成24年より作成

上記の表より次のことが言える。

(1) 食費

食費は他の世帯より凡そ 38,000 円～45,000 円程我が家が超過している。自分の生活をもう一度見直して簡素にしていきたい。相当努力していかなければならない項目だということがわかった。財布に入れておくお金を 1,000 円か 2,000 円に決めて必要以上にお金を持ち歩かないようにするなど工夫していきたい。

(2) 住居費

住居費は他の世帯より、凡そ 1,400 円～6,000 円程我が家が超過している。自然災害などの影響により、月平均 2 万円前後がかかることがわかった。

家の維持には、費用がかかることを日頃から頭の片隅において、生活をしていきたいと思う。

(3) 光熱・水道費

光熱水道費は、他の世帯より凡そ 7,000 円～9,000 円程我が家が超過していることがわかった。今後どういう生活をすれば節約できるのか工夫していきたい。例えば電気を使用しない時は、なるべくコンセントを切っておくとか、エアコンを使用する時は、時間を決めることから始めたいと思う。家族にも協力を求めていきたい。

(4) 家具・家事用品費

家具・家事用品費は、他の世帯より凡そ、4,000 円～5,100 円程我が家が超過している。なるべく物を買わないように気をつけていたつもりだが、まとめ買いをする癖があるのでこれからは必要な時に足りなくなったものを買い足すように心掛けていきたい。トイレトペーパーやティッシュペーパーなど、ふんだんに使っていたが、使う量や回数を減らして使用頻度を減らしていきたい。

(5) 被服・履物費

被服・履物費は他の世帯より凡そ 12,000 円～16,000 円程超過している。あまり衣料品を買っているという自覚がなかったので驚いている。今までは計画的に考えて買うというよりも、衝動的に買うことが多かった。これから買物する時は、枚数を増やさず、衣料品を持ちすぎないように心掛けていきたい。

(6) 保健医療費

保健医療費は、他の世帯より凡そ 2,300 円～5,300 円程低くなっている。しかし、今までは運が良く健康だったため、比較的出費が少なかった。今後は病気や怪我な

どの予防をしながら食事などに気をつけて、なるべく健康に暮らせるように努力していきたい。

(7) 交通・通信費

交通・通信費は、他の世帯より凡そ 17,000 円～31,500 円程超過している。

なるべく交通費のかからない方法を考えて外出の機会を減らさずに、暮らしていきたい。他の世帯に比べてこんなに多く出費していたことに驚いている。

(8) 教育費

教育費は、他の世帯より凡そ 112,000 円～13 万円程超過している。息子が学生のため、子どもの将来を思うと出費をしないわけには行かない。貯金を切り崩しての生活が続いている。

(9) 教養娯楽費

教養娯楽費は他の世帯より凡そ 17,700 円～19,700 円程超過している。旅行の宿泊などに伴う出費がかさんでいる。自分の足で歩けるうちに外に出て見聞を広めることは健康であることのあかしでもあるので、むやみに減らさないで楽しんでいきたい。これからは日帰り旅行など工夫して、宿代をなるべくかけずに企画をたてていきたいと思う。

(10) その他の消費支出

その他の消費支出は他の世帯より凡そ 12,000 円～17,500 円程超過している。世帯主の年齢階級別 50～59 歳の場合に限り、大体同じ支出額になっている。今後は 60 代 70 代に向けて費用を今より押さえていく方向で予算をたてて、予算内で収まるように努めていきたい。

(11) 消費支出合計

我が家の消費支出が 1 ヶ月で凡そ 55 万円かかることを知り、改めて生きていくにはお金が必要なことを実感した。しかし、他の世帯と比べて凡そ 20 万 6 千円～26 万 5 千円程超過している。その主な原因は、教育費、食費、交際費・その他、交通・通信費、教養・娯楽費、光熱・水道費、被服・履物費、住居費、家具・家事用品の順に消費支出が高くなっている。保健・医療費だけが他の世帯に比べて唯一低くなっている。

今後は保健・医療費を増やさないように気をつけ、その他の費目については意識して節約していくよう努めていきたい。

6. 60歳からの生活費について

総務省「家計調査年報」平成24年(2012年)によると、総世帯のうち高齢無職世帯(世帯主が60歳以上の無職世帯)の月平均の実収入は181,028円となっている。そこから直接税、社会保険料などの非消費支出23,190円を引くと可処分所得は157,838円となる。それに対して消費支出が205,629円なので47,791円が不足となる。その平均消費性向は130.28%になる。実収入のうち公的年金などの社会保障給付金は157,785円で実収入の87.2%を占めている。その他の実収入が23,243円で12.8%を占めている。不足分は実収入より30.28%超過している。このことから総世帯のうち高齢無職世帯の家計収支は、公的年金などの社会保障給付金だけでは足りず、その不足分は貯金を切り崩して補われていることが明らかになる。

7. おわりに

平成19年より平成24年までの我が家の消費支出についてノートに書きとめておいたことがきっかけとなり、ただ記録するだけではなく、総務省統計局家計調査収支項目の分類に沿って、まとめてみようと思いたった。そして我が家の消費支出が1ヵ月どれくらいなのか、またどんな特色があるのかを調べてみた。その結果、我が家の6年間の消費支出の1ヵ月当たりの平均は、凡そ54万8千円であることがわかった。我が家の特色は食費と教育費を合わせて全体の凡そ45%を占めていることである。その次に交際費・その他、その次に交通・通信費、その次に教養・娯楽費の順に支出が多くなっている。

総務省「家計調査年報」平成24年(2012年)によると総世帯のうち高齢無職世帯(世帯主が60歳以上の無職世帯)の消費支出が1ヵ月当たり205,629円であることがわかった。我が家の1ヵ月当たりの消費支出と比べると凡そ34万円我が家の消費支出が高くなっている。教育費を差し引いたとしても世帯主が60歳以上の無職世帯の平均的な生活費と比べて、あまりにも掛け離れている。現在の消費支出を半分にして生活するには相当の節約が必要になる。今のうちに広がり過ぎた消費支出を少なくし貯蓄を増やしていきたいと思う。今後は年齢に関係なく働きたいという意欲のある人が働けるように、職種が増えて行ったらいいと思う。誰もが生きていくための最低限度の衣食住の整った生活を保証されるようにするにはどうしていったら良いのだろう。仕事を分け合うという発想から働いて生活を支えて健康寿命を伸ばしていければ、それが、よりよく生きることに繋がっていくと思

う。

参考文献

「家計調査 収支項目分類の解説（平成 12 年 1 月改訂）」編集 総務省統計局

発行 財団法人 日本統計協会 平成 13 年 5 月発行

「家計調査年報《家計収支編》平成 19 年」編集 総務省統計局

発行 財団法人 日本統計協会 平成 20 年 6 月発行

「家計調査年報《I 家計収支編》平成 20 年」編集 総務省統計局

発行 財団法人 日本統計協会 平成 21 年 6 月発行

「家計調査年報《I 家計収支編》平成 21 年」編集 総務省統計局

発行 財団法人 日本統計協会 平成 22 年 6 月発行

「家計調査年報《I 家計収支編》平成 22 年」編集 総務省統計局

発行 財団法人 日本統計協会 平成 23 年 5 月発行

「家計調査年報《I 家計収支編》平成 23 年」編集 総務省統計局

発行 独立行政法人 統計センター 平成 24 年 11 月発行

「家計調査年報《I 家計収支編》平成 24 年」編集 総務省統計局

発行 独立行政法人 統計センター 平成 25 年 7 月発行